

鳥屋野地域×総合的な学習 ～効果的な外部連携と地域探究活動～

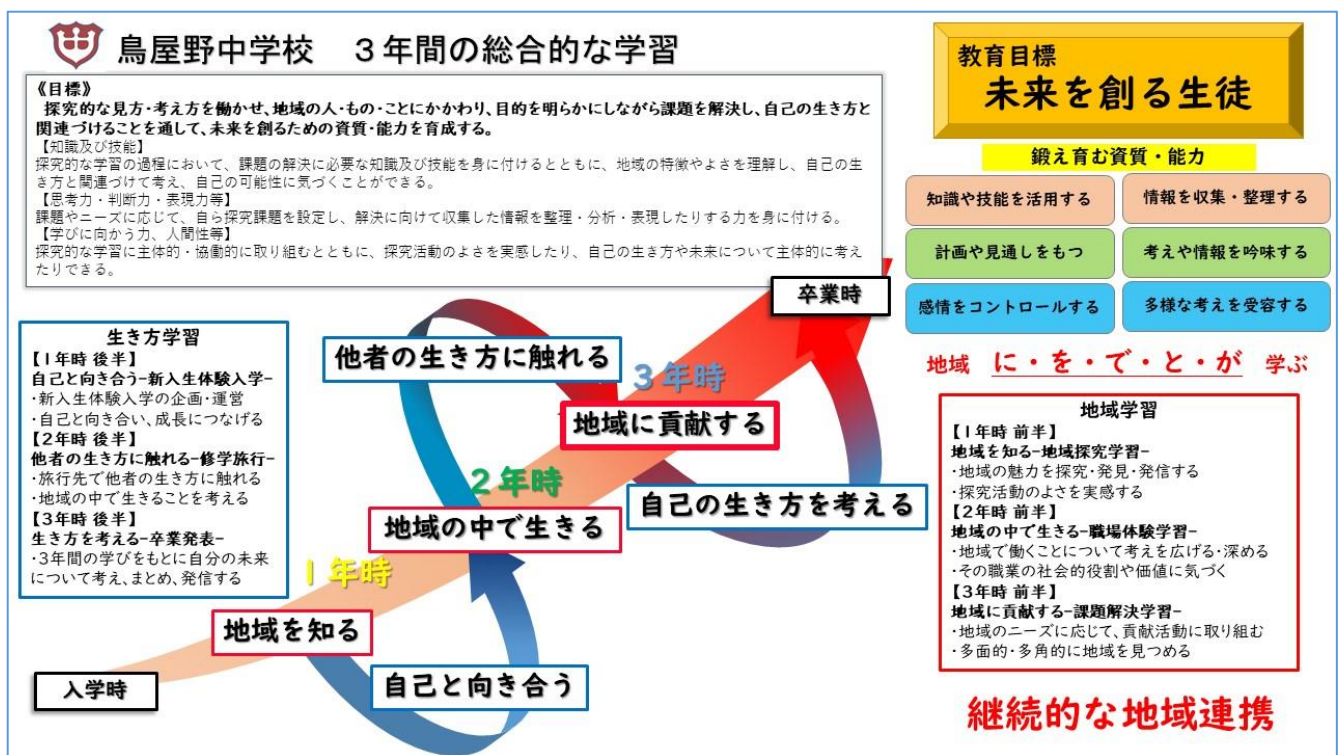
新潟市立鳥屋野中学校
澤田健太郎（平成25年度）

総合的な学習において、外部機関と効果的に連携しながら、地域探究活動を組織すると、生徒は地域への愛着を深めたり、地域探究活動のよさを実感したりすることができる

1 実践について

当校の教育目標は「未来を創る生徒」である。その教育目標の実現を目指し、教科・特別活動・総合的な学習・学校行事などすべての教育活動を通して、6つの資質・能力「情報を収集・整理する」「知識や技能を活用する」「計画や見通しをもつ」「考えや情報を吟味する」「感情をコントロールする」「多様な考えを受容する」の育成に取り組んでいる。総合的な学習においては「地域」と「生き方」という2つの柱を設定し、3年間の学習を系統的に組織する中で、資質・能力の育成、教育目標の実現を目指している。（図1：イメージ）

本実践は1年時の「地域を知るー地域探究学習ー」に関わる単元「とやの2km」である。活動内容は鳥屋野地域の魅力を探査し、その魅力をPR動画にまとめて発信するというもので、効果的に外部機関と連携しながら鳥屋野地域を探査することを通して、生徒は地域の魅力を発見・再発見し、地域への愛着を深めることができるように手だてを工夫した。また学習を通して地域探究活動のよさを実感し、本実践が3年間の総合的な学習の基礎となるように単元を構想、実践を行った。



【図1：総合的な学習イメージ】

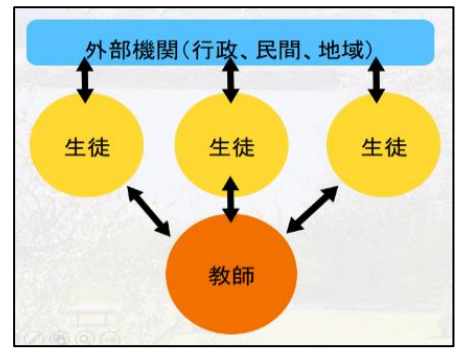
2 実践内容

【単元のねらい】

鳥屋野地域の魅力PR動画を制作するために、外部と連携しながら、探究的な見方・考え方を働かせて地域を調査・追究することで、地域の魅力を発見・再発見し、地域への愛着を深めたり、地域探究活動のよさを実感したりすることができる。

●第1次 地域への関心・活動意欲を高める（図2：外部連携イメージ）

単元の導入となる第1次では、オリエンテーションとして新潟市都市政策部、NST新潟総合テレビ、docomoの方と連携し指導を行った。具体的には、事前に単元のゴールイメージ（育てたい生徒像、実現に向けた思い）を共有しながら講義していただく内容を検討した。また、生徒参加型のパネルディスカッションを行い、外部機関と教職員、生徒が同じ思いをもって学習に取り組むことができるように働きかけた。このような手だてを講じ生徒の関心・意欲を高めた後に教師から「とやの2km」という活動を提示した。オリエンテーション後、教師は生徒の意欲がより高まったり、維持されたりするような働きかけを継続的に行った。オリエンテーションによって、生徒は学習を通して「地域をより広く・深く知りたい！」と意欲を高めることができた。



【図2：外部連携イメージ】

●第2次 活動の見直しをもつ

動画の制作の前に、地域のどんな魅力を、どのように動画にまとめていくのか、その完成イメージを考えたり、活動の見直しをもったりするために「PR動画構想シート」（図3）をグループで作成した。「誰に向けてつくるのか？」という対象を明確にするための問いを出したり、動画の形式を具体的に構想させたりすることで、動画完成までの見直しを持ち、グループで共有することができるようにした。

①動画のテーマ：	
②紹介したい魅力	③誰に向けてつくるか（対象）
④動画の形式（2つ以上に○がついてもよいです）	
★映像中心（ナレーションを声で）	★オリジナルキャラクター等を出演させる
★インタビュー映像を使う	★その他 ※具体的に書く
⑤動画制作に必要なこと（○○へ行き、○○を撮影したい、○○にインタビューしたい など） ※できるだけ具体的に書き、担当の先生とよく打ち合わせをしましょう。	

【図3：PR動画構想シート】

●第3次 取材・撮影・編集活動

地域の施設や商業施設での撮影、インタビュー活動を行い、集めた素材を編集しながら動画制作を行った。ここでは同じ施設に取材・撮影を行っても、テーマや対象によってインタビュー内容や撮影方法が異なるという状況が生まれた。対象を明確化したことで、生徒はその施設の魅力をより効果的に伝えるために試行錯誤しながら活動することができた。また教師は生徒との対話の中で、動画のクオリティよりも、地域の魅力をどのように捉えて、発信できているかという視点から指導やアドバイスを継続的に行った。

●第4次 発表・まとめ・振り返り

完成したPR動画とYouTube公開用の「サムネイル」「概要欄」を各クラス内で発表した。発表を見る生徒は、「新たに発見した鳥屋野地域の魅力は？」という視点から発表会に参加し、ワークシートを書いた。また、まとめとして「鳥屋野地域はどんな魅力ある地域ですか？」と問い、生徒は自分の言葉で鳥屋野地域の魅力を説明する活動を行った。外部の方からは「活動を通して、鳥屋野地域をより深く・広く知ることができたか？」「探究活動は充実した活動になったか？」「中学生ならではの視点で面白い」というようなコメントを生徒に投げかけていただいた。以上の手だてにより、生徒はPR動画の編集技術やクオリティよりも、地域探究学習としての学びを実感している様子であった。

3 成果

(1) 単元のねらいに関わって

【表1：生徒アンケートより抜粋】

地域への愛着 「鳥屋野地域は良い地域だと思いますか？」	地域探究活動のよさを実感 「地域のことを調べる活動は好きですか？」
<p>○全体の変容</p> <p>とても良い地域だと思う 161 → 206 <u>(+45)</u></p> <p>あまり良い地域ではないと思う 5 → 0 <u>(-5)</u></p> <p>良い地域ではないと思う 1 → 0 <u>(-1)</u></p> <p>○個人の変容</p> <p>【生徒A】 良い地域だ→とても良い地域だ 地域の良さを伝えるために<u>頑張れる人</u>、忙しい中時間をとってインタビューに答えてくれる<u>優しい人</u>など多くの<u>素敵な人</u>がいるから。素敵なお店がいっぱいあるから。</p> <p>【生徒B】 良い地域ではない→まあまあ良い地域だ 今まで知らなかった魅力が見えてきて、行きたいな<u>って思うところが増えてきた</u>から。</p>	<p>○全体の変容</p> <p>とても好き・好き 215 → 228 <u>(+13)</u></p> <p>嫌い・とても嫌い 28 → 9 <u>(-19)</u></p> <p>○個人の変容</p> <p>【生徒C】 好き→とても好き 知らない人に伝えたときに、「へえ～」とか「そうなんだ」みたいな<u>反応が聞けたときに嬉しい気持ち</u>になるから。</p> <p>○【生徒D】 嫌い→好き 自分の地域を調べて<u>知らないことが発見できる</u>から</p>

(2) 外部連携について

【表2：外部連携の手だてと成果】

□手だて	○成果
□新潟市都市政策部の講義（にいがた2km説明）	○地域活性のメカニズムを知れた、地域を活性化への意欲向上
□NST新潟総合テレビ、docomoの講義（PR動画制作の提案、動画制作指導）	○外発的動機付けによる動画制作への意欲向上 ○情報モラルや動画撮影に必要な知識や技能を獲得
□パネルディスカッション（地域の魅力を考える） →外部機関、地域Co、教職員、生徒	○鳥屋野地域の魅力を考え、共有できた ○地域をみる視点を広げる→地域への興味・関心の高まった
□NST新潟総合テレビでの報道（大好きにいがた企画、発表会の様子を報道）	○生徒の活動が価値付けられ、（動画制作活動が地域活性につながっている！）活動意欲向上と維持につながった

(3) 教育目標と資質・能力に関わって（図4）

- 知識や技能を活用する
 - ・iPadを使った動画撮影、編集、取材、インタビュー等
 - ・情報モラル（著作権、フリー素材、フリーBGM等）
- 情報を収集・整理する
 - ・取材、インタビュー、撮影、調査等
- 考えや情報を吟味する
 - ・収集した情報を整理したり、吟味したりして動画制作
- 計画や見通しをもつ
 - ・PR動画構想シートの作成と共有
- 多様な考えを受容する
 - ・グループでの話し合い、役割分担
- 感情をコントロールする
 - ・計画から完成まで、動画制作への意欲を維持する



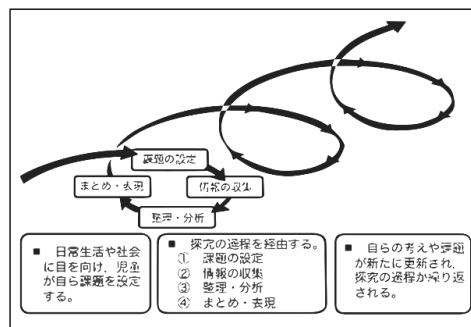
【図4：新潟市立鳥屋野中学校 教育目標と鍛え育む資質・能力】

4 課題

- ・外部連携にかかるエネルギーは大きい（時間の確保、連絡、調整など）
- ・生徒の記述より：「協力するのがそこまで好きではない」「そこまで地域に愛着をもって生活をしているわけではない」
→生育環境や家庭環境など生徒の抱える背景の違い、学級風土やグループ風土の醸成が必須
- ・単元の学習によって資質・能力が育まれたのかどうかを検証したり（教師側）、生徒が自覚したりできるような場面の設定が不十分だった
- ・教科横断的な視点が不十分だった
- ・教員の ICT 技量差

5 考察

中学校学習指導要領総合的な学習編（平成29年告示）によると、「探究的な学習では、次のような生徒の姿を見いだすことができる。事象を捉える感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる。身に付けた知識及び技能を活用し、その有用性を実感する。見方が広がったことを喜び、さらなる学習への意欲を高める。概念が具体性を増して理解が深まる。」とある。（図5）



【図5：探究的な学習における学習の姿】

本実践は3年間の系統的な学習の基礎となる重要な単元であった。鳥屋野地域の魅力を収集、整理、分析し、PR動画を制作する活動を通して、生徒たちは今までよりも鳥屋野地域をより広く、深く知ることができた。そして、新たな魅力を発見したり、改めて魅力を実感したりした。またPR動画のクオリティを追求することよりも、地域をみる視点、地域の魅力をどのように取り上げ、発信するかということを継続的に考えながら動画制作に取り組んだ。私たち教師は、動画制作という活動自体が生徒たちの興味関心が高い活動であることから、単元での学びが活動ベースにならないように、学習のねらい（地域をより広く・深く知ること）を繰り返し生徒と確認しながら指導を進めた。そのような手だての結果、生徒は鳥屋野地域への関心を高めたり、地域への愛着を深めたりすることができたと考える。

本実践では、効果的な外部連携を意識しながら学習を進めた。単元の導入部では、「にいがた2km」施設に関わって、新潟市都市政策部の方と協働し、生徒たちに地域活性のメカニズムやその意味について考えさせた。NST新潟総合テレビやdocomoの方とは、生徒のPR動画制作への意欲向上、撮影・編集・インタビュー方法や情報モラル等の知識・技能の獲得やその活用についても協働しながら生徒へ働きかけることができた。このように、継続的に外部機関と連携していくなかで、学校にも外部機関にもプラスの要素が増えていき、WIN-WINの関係に近づくことができたと考える。

外部機関との連携にかかるエネルギーは大きく、教職員にとっては負担と覚えることが多いかもしれない。しかし、現在各校で行っている外部や地域との連携を見直してみる価値があるのではないかと感じた。今回の実践では新潟市都市政策部、NST新潟総合テレビ、docomo、地域の施設等とゴールイメージを共有しながら連携したことで、生徒の意欲が向上したり、イキイキとした表情で学習活動に臨んだりする姿を多くみることができた。社会に開かれた教育課程の実現のよさを実感することができた単元であった。

今後も継続的な地域連携による3年間の地域学習を通して、資質・能力を育み、教育目標である「未来を創る生徒」の実現に向けて取り組んでいく。

《参考文献》

『中学校学習指導要領 総合的な学習編』文部科学省 平成29年7月

